

シラバス（授 業 概 要）				年 度		2026 年度	
時間数は45分換算				科目コード		H-K02	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース		
コミュニケーション活動Ⅱ			実技・演習		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
2	通年	必修	60	2	榛葉 幸子		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
行事を通じ、チームワークなど教室の授業では得られないコミュニケーション能力の向上ができるようになる。							
授 業 の 概 要							
学校行事として、各種行事（遠足・スポーツフェスティバル）に参加する。							
成 績 評 価 の 方 法							
認定科目のため、参加態度（学習意欲）で評価する。						課 題	50%
						学習意欲	50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
なし							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
1. 遠足 2. 防災訓練 3. 幼児救急法 4. スポーツフェスティバル 5. 就職研究 6. 縦割りワーク			時間数				時間数
			8				
			2				
			8				
			4				
			12				
			26				
その他				関連科目			

シラバス (授 業 概 要)				年 度		2026 年度	
				科目コード		H-K03	
授 業 科 目 名				授業形態		学 科 ・ コー ス	
コミュニケーション活動Ⅲ				実技・演習		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
3	通年	必修	60	2	榛葉 幸子		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
校外での集団行動も多く取り入れ、チームワークなど教室の授業では得られないコミュニケーション能力の向上ができるようになる。							
授 業 の 概 要							
学校行事として、各種行事（遠足・スポーツフェスティバル）や特別講座を受講する。							
成 績 評 価 の 方 法							
認定科目のため、参加態度（学習意欲）で評価する。 また、保育特別講座については、報告書(課題)にて評価する。						課 題	50%
						学習意欲	50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
なし							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
1. 遠足			時間数				時間数
2. 防災訓練			8				
3. スポーツフェスティバル			2				
4. 修学旅行			4				
5. 縦割りワーク			40				
			6				
その他				関連科目			

シラバス（授 業 概 要）					年 度	2026 年度
時間数は45分換算					科目コード	H-K04
授 業 科 目 名			授業形態		学 科 ・ コー ス	
キャリア講座			講義・演習		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必須	30	1	人材サポート 長崎一朗 富田美穂子 近田麻衣子	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
「なぜ人は働くのか」通常、「経済的理由・社会的理由・個人的理由」と言われるが、どれに重きを置くかは、それぞれの価値観と置かれた環境に大きく影響される。この授業は、現実の社会、企業が求める人材、雇用情勢の把握と、その中で自分のあり方についての理解（自己分析）を深め、そこから進路選択につながるキャリア形成プランニングを体系化していく。さらに早い時期から就職活動への意識を高め、その実践的ノウハウを習得する。変化していく雇用環境に対応できる自立人間と自律人材になることを目標とし、その礎となる授業である。						
授 業 の 概 要						
キャリアデザインの考え方を理解し、社会に通用する人材になるための指標を持つ。時間の意識・挨拶等マナーの理解と実践・スピーチカトレニング・ディスカッション等によりEQコミュニケーション力の強化も図る。就職環境・業種・職種・企業の理解促進。自己分析のワークシート（課題）と履歴書（課題）を作成し、今後の就職活動にも連動していく。						
成 績 評 価 の 方 法						
提出レポート（履歴書項目・面接対策関連・提出期限）を中心として、履歴書記入内容・自己分析ワークシート記入内容のレポート結果 や取り組み状況（出席等）に基づき、成績評価を行う。提出レポートは詳細に記入することを心掛けてください。					課 題	90%
					授業対応	10%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
「就活のコツ／静岡新聞社」 授業に関するテキスト以外の資料は、授業の中で適時プリントを配布します						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
			時間数			時間数
1 ①就職できる力／ワーク①天職探索			2	9 ⑨履歴書		4
2 ②夢を描く／ワーク②10年後のやりたい自分 ワーク③学生生活経歴書			4	／ワーク⑩履歴書※「学校指定」履歴書		
3 ⑩インターンシップ ／ワーク⑪就職条件⑫インターンシップワーク			4	10 ⑩エントリーシート ⑭自己PR 動画 ／ワーク⑬エントリーシート ワーク⑭自己PR		2
4 ③業種・職種の理解／ワーク④成功体験			2	11 ⑬面接の受け方 ⑮集団・グループディスカッション		2
5 ④何ができる何がしたい ⑭ステップアップ／ワーク⑤失敗体験			2	⑯オンライン面接 ／ワーク⑯面接対策 ワーク⑰面接質問		
6 ⑤自分を知る自己分析 ／ワーク⑥自己ワークシート			2	※履歴書内容を含む課題レポート提出		
7 ⑥⑦求人票・求人情報 ／ワーク⑦他己ワークシート			2	12 ⑪添え状 ⑫電話のかけ方 ⑬筆記試験 ／ワーク⑬封筒・添え状・お礼ワーク		2
8 ⑧職場訪問／ワーク⑧仕事探索 ワーク⑨未来予想 ワーク⑩未来スケジュール			2			
その他			関連科目			
企業が求める常識力、規律意識、ビジネスマナーを授業でも心掛けてください。						

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2026 年度 H-K05
時間数は45分換算					
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
ビジネスマナーⅡ			講義・演習	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	30	1	原 郁美
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
社会人としてスタートラインに立つために「社会人基礎スキル」を学び、それらを理解し、修得できる。					
授 業 の 概 要					
保育者に求められる「社会人基礎力」を学ぶことで、保育者に必要な様々な力（発進力、傾聴力、柔軟性等々）を身につけていくことを目指す。 自分らしさを自覚し、日常生活に意識的に取り入れることで、職場での人間関係に活かせる自信を高めていく。					
成 績 評 価 の 方 法					
演習課題に対する評価、学習意欲（出欠席状況・授業態度）等を勘案して総合評価とする。					課 題 50% 学習意欲 50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
自信がもてる、成長できる！ 新人保育者が 身につけたい 社会人基礎スキル 一般社団法人キャリアヘルス研究所 谷口真紀 著					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			時間数
1. 保育者に求められる「社会人基礎力」		2	11. 失敗を学びに変える		2
2. 仕事をスムーズに進める【発信力】		2	【課題発見力】		
3. 信頼関係を築く【傾聴力】		2	12. 仕事のプロセスを明らかにして		2
4. 指導や意見の違いを受け入れる		2	準備する【計画力】		
【柔軟性】			13. 新しい価値を生み出す【創造力】		2
5. 組織や周囲の人との関係性を理解する		2	14. 保育者としてのキャリアデザイン		2
【情報把握力】			15. 保育者になるための心構えと誇り		2
6. 保育の質を高める【規律性】		2			
7. 仕事の効率を上げる		2			
【ストレスコントロール力】					
8. 物事に進んで取り組む【主体性】		2			
9. 周囲を巻き込んで仕事を前に進める		2			
【主体性】					
10. 目的に向けて諦めずに挑戦し続ける		2			
【実行力】					
その他			関連科目		

シラバス (授 業 概 要)					年 度	2026 年度
時間数は45分換算					科目コード	H-K07
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース	
情報リテラシーⅡ			演習		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	30	1	梅原 萌子	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
Microsoft Office の Word の操作及び実習を通して、それぞれのアプリケーションの理解を深め、検定合格を目指す。Word のメニューを使いこなし、最終目標として検定に合格するために、総合的な理解ができる。						
授 業 の 概 要						
MOS 試験範囲を確認しながら、各单元ごと理解度をチェックしていく。 模擬問題も繰り返し学習し、制限時間内 (50 分) に、検定合格目標ライン (80%) に到達できるように理解力を深める。						
成 績 評 価 の 方 法						
授業内での課題・小テスト・参加態度(学習意欲) を総合的に評価する。					課 題	40%
					小テスト	30%
					学習意欲	30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
よくわかるマスターMOS Word 365&2019 対策テキスト&問題集 (FOM 出版)						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
1. アプリケーションのインストール、 Word 復習 (図の挿入、表の作成) 2. 文書の作成と管理 3. 文字、段落、セクションの書式設定 4. 表とリストの作成			時間数	5. 参考資料の作成と管理 6. グラフィック要素の挿入 書式設定 7. 模擬試験問題 8. 検定試験		時間数
			2			4
			4			4
			4			6
			4			2
その他				関連科目		
				情報リテラシーⅠ・Ⅲ 情報処理入門Ⅰ・Ⅱ		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2026 年度 H-K08
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース
情報リテラシーⅢ			講義・演習		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	60	2	山崎 弘
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
MOS Excel365 の合格を目標とする。当該試験の範囲 1～5 に関するソフトウェアの操作体系と操作スキルを定着させるとともに、模擬試験を実施することで合格するための攻略法を身につける。特に、学習期間の後半では合格への対策手段を集中的に学習する。					
授 業 の 概 要					
1. ブック、ワークシート、セルの概念を理解し、これを対象とする操作を習得する 2. テーブルとテーブルデータ管理を理解し、これを対象とする操作を習得する 3. グラフの作成と変更および書式を理解し、これを対象とする操作を習得する					
成 績 評 価 の 方 法					
試験評価：模擬試験 1～5 を評価しその素点の平均とする 12 月に実施する MOS の検定試験結果も評価の対象とする 学習意欲：授業時の受講態度や授業への参加の姿勢なども総合的に評価する					試験 50% 意欲 50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
MOS Excel365 テキスト 富士通エフ・オー・エム(株) 同テキストの学習データおよび模擬問題データ教材 関数使用一覧など授業内で配布する副教材					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1. ワークシートとブック		時間数	3. テーブル		時間数
(1) ブック内の移動		2	(1) テーブル作成		2
(2) 書式設定		4	(2) テーブル変更		2
(3) オプション表示		2	(3) テーブルデータとレコード		4
(4) コンテンツ設定		4	4. 数式と関数		
(5) ブックへのインポート		2	(1) 数式と参照		4
2. セルとセル範囲			(2) 関数の利用		2
(1) データ操作		2	(3) 数式・関数の応用		4
(2) 範囲設定		2	5. グラフ		
(3) 名前付き範囲		2	(1) 作成		2
(4) スパークラインと組込み		4	(2) 変更		2
			(3) 書式設定		4
			6. 模擬試験 5 回		10
その他			関連科目		

シラバス（授 業 概 要）				年 度		2026 年度	
時間数は45分換算				科目コード		H-K11	
授 業 科 目 名			授業形態		学 科 ・ コー ス		
公務員試験対策講座Ⅰ			その他		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
2	通年	必修	60	2	榛葉 幸子		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
・ 公務員試験（保育）の概要と出題傾向を理解し、保育に関する専門知識を強化することができる。 ・ 面接対策やグループディスカッション対策を通じて、自己表現力や協働性を養うことができる。							
授 業 の 概 要							
公立保育施設で働くための公務員試験に向けた対策を行う。公立園の役割や私立園との違い、公務員として働く保育者の業務内容等を知り、進路選択に役立てる。専門分野の知識を深めるとともに、文章表現、面接やグループディスカッションのスキルを向上させることを目的とする。							
成 績 評 価 の 方 法							
課題として作文、面接対策等準備を行い、期末試験として模擬テストを行う。 授業態度として、練習問題や面接対策への取り組み、グループディスカッションでの主体性・積極性を評価する。						期末試験	40%
						課 題	30%
						学習意欲	30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
公立幼稚園教諭・保育士採用試験対策シリーズ 2025 年度版（共同出版）							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
1. オリエンテーション： 講座の概要と目標の説明			時間数 2	10. グループディスカッション対策 基本ルールと進行方法			時間数 20
2. 保育士の役割と公務員としての責任 公立園の役割と意義			2	テーマ設定と意見交換 模擬ディスカッション			
3. 公務員試験の概要（試験の種類と出題傾向）			4	問題解決型ディスカッション ケーススタディ			
4. 社会福祉：基本概念と制度			2	11. 保育の心理学：発達心理・心理的支援・コミュニケーション			2
5. 社会的養護：児童福祉施設について			2	12. 面接対策			10
6. 乳児保育：乳児の発達と保育の実践			2	自己分析（過去の経験、長所・短所）、志望動機・自己紹介、基本マナー			
7. 子ども家庭福祉：家庭支援と子どもの福祉			2	模擬面接と振り返り			2
8. 子どもの保健：子どもの健康管理と予防			2	13. 模擬テスト・総括と今後の展望			
9. 作文対策			8				
その他				関連科目			
				公務員試験対策講座Ⅱ			

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2026 年度 H-K12
時間数は45分換算					
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
公務員試験対策講座Ⅱ			講義	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	30	1	榛葉 幸子
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
公務員試験に対応できるよう、調査・受験手続などを行う。 また、新聞の読み方など社会人に必要な知識として、話題の時事ネタを中心に討論やグループワークを行い、その内容をプレゼンテーション出来るようにする。					
授 業 の 概 要					
公務員試験について、受験自治体の実施計画を調査する。また、1次試験対策を行う。 社会人としての基礎知識として、新聞内容を読み解き 自分の考えを述べる。また、ディベート・グループワークを経験し、プレゼンテーションも行う。					
成 績 評 価 の 方 法					
単元ごとの課題と期末試験 課題を調査・発表 課題への取り組み態度を学習意欲とする 以上3点を総合的に評価する。					期末試験 70% 学習意欲 30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
なし					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1 自治体の公務員試験実施計画を調査	時間数 2	5	新聞を読む	時間数 2	
2 各自治体の実施計画をリマインド	2	5.1	直近1週間の新聞		
3 公務員試験対策	16	6	昨日のニュース	4	
3.1 筆記試験		6.1	政治の話題に触れる		
3.2 ディスカッション		6.2	保育の話題に触れる		
3.3 面接					
4 エントリーシートの書き方	4				
その他			関連科目		
			公務員対策講座Ⅰ		

シラバス（授 業 概 要）					年 度	2026 年度	
時間数は4 5分換算					科目コード	H-K24	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース		
子ども家庭福祉			講義		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
2	前期	必修	30	2	工藤 豪		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
子ども家庭福祉に関する基本的知識を身につけるとともに、子ども家庭福祉をめぐる制度や施策の特徴、少子化や子育て環境における課題について理解し、自らの言葉で説明できるようになる。							
授 業 の 概 要							
少子化の進行や地域社会の稀薄化に象徴されるように、わが国の子どもをめぐる環境は急速に変容しているが、その中で、子どもの健やかな育ちをどのように支援していくべきなのであろうか。本授業では、子ども家庭福祉の理念と対象、児童福祉に関する制度の展開、少子化に関する特徴と課題、保育・子育て支援サービスや子どもをめぐる社会環境などについて理解を深めていく。							
成 績 評 価 の 方 法							
試験（試験）、作業プリントやリアクションペーパーの内容等（課題）、授業時の受講態度やグループ考察時の参加姿勢など（学習意欲）、以上から総合的に評価する。なお、成績評価を行うにあたっては、授業の中で指示された課題の提出を完了することが必要となる。					試 験	50%	
					課 題	25%	
					学習意欲	25%	
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
『新・子ども家庭福祉[第2版]』（2024、浦田雅夫編著、教育情報出版）							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
1. オリエンテーション・子ども家庭福祉の理念 2. 「児童福祉」から「子ども家庭福祉」への変化・転換 3. 親権と子ども 4. キーワードからみる子ども観（1）－捨て子・堕胎・跡取り－ 5. キーワードからみる子ども観（2）－愛着理論と3歳児神話－ 6. 児童福祉の展開（1）－戦前－ 7. 児童福祉の展開（2）－戦後－ 8. 少子化（1）－出生数・合計特殊出生率の推移とその背景－			時間数	9. 少子化（2）－少子化の要因－ 10. 少子化（3）－少子化と子育て支援施策－ 11. 児童虐待に関する実態の特徴 12. 児童虐待に関する制度的対応 13. 保育所・幼稚園・認定こども園の概要と特徴 14. 放課後児童健全育成事業について 15. 子どもの存在と母子保健に関する動向			時間数
			2				2
			2				2
			2				2
			2				2
			2				2
			2				2
			2				2
その他			関連科目				

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2026 年度
時間数は45分換算				H-K25	
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
保育原理			講義・演習	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	森下 みつ美
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
・ 保育の意義、目的や保育所保育指針における保育の基本、保育についての思想や歴史について知ることができる。 ・ 子どもを援助するうえでの保育の内容と方法の基礎事項が理解できる。					
授 業 の 概 要					
基本教科書に沿って授業を進めていくが、キーワードとなる人物やワードには補足して説明する。保育の現状と課題について考察し、グループワークや発表を通して、保育に対するいろいろな考え方を知り、また、自分なりの見識が持てるようにしていく。1年時に学習した教育原理と重複内容もあるため、復習しながら進めていく。					
成 績 評 価 の 方 法					
期末試験、課題（小レポート）、学習意欲（授業態度・発表・出欠状況）を総合的に判定し評価する。小レポートは授業内で実施するが、決められた期日までの提出と課題内容の記述があることが求められる。				期末試験	40%
				課 題	30%
				学習意欲	30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
・ 保育原理（近畿大学九州短期大学発刊） ・ 新基本保育シリーズ 保育原理（中央法規） ※必要なプリントを配布する					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			時間数
1. 幼児期の特質と保育の意義			6. 保育の目的		2
1-1 乳幼児期の特質と保育の意義		2	7. 保育の内容・方法		2
1-2 乳幼児期の発達的特質		2	8. 保育の計画・評価		
2. 保育思想と児童観の変遷			8-1 保育の計画		2
2-1 古代～近世		2	8-2 保育の評価		2
2-2 近代幼児教育思想の形成		4	9. さまざまな保育と課題		2
3. 近代保育施設・制度の創設と発展		2			
4. 各国の保育		2			
5. 我が国における幼稚園・保育所の成立と変遷		2			
5-1 幼稚園		2			
5-2 保育園		2			
その他			関連科目		

シラバス (授 業 概 要)					年 度	2026 年度
時間数は45分換算					科目コード	H-K27
授 業 科 目 名			授 業 形 態		学 科 ・ コー ス	
子ども家庭支援論			講義		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	30	2	工藤 豪	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
子どもと家庭に関する基本的知識を身につけるとともに、現代の日本社会で家庭支援を行う意義や家庭への個別的な支援における特徴や課題について理解し、自らの言葉で説明できるようになる。						
授 業 の 概 要						
核家族化やきょうだい数の減少および地域社会の稀薄化などにより、わが国で伝統的に行われてきた家庭の機能・役割が縮小している中、保育者による家庭支援の意義・必要性が高まっている。そのような社会の変容を踏まえ、子どもと家庭における特徴や抱える課題を把握し、制度を活用しながら多様な家庭を支援していく方法について理解を深めていく。						
成 績 評 価 の 方 法						
試験（試験）、作業プリントやリアクションペーパーの内容等（課題）、授業時の受講態度やグループ考察時の参加姿勢等（学習意欲）、以上から総合的に評価する。 なお、成績評価を行うにあたっては、授業の中で指示された課題の提出を完了することが必要となる。					試 験	50%
					課 題	25%
					学習意欲	25%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
渡邊 暁ほか編著、2024、『実践で役立つ 子ども家庭支援論』ミネルヴァ書房						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
1. オリエンテーション・家庭支援を行う意義と求められる背景 2. 子どもと家庭（1）－家族と世帯－ 3. 子どもと家庭（2）－日本家族の時代的変容－ 4. 子どもと家庭（3）－日本家族の地域的多様性－ 5. 子どもと家庭（4）－現代社会における家族の機能－ 6. 子どもと家庭（5）－時代の推移にともなう子育て環境の変容－ 7. 子どもと家庭（6）－親になるプロセスとリプロダクティブヘルス／ライツ－ 8. 子どもと家庭（7）－乳幼児期の子どもと子育て			時間数	9. 保育と家庭（1）－家庭支援に関わる法・制度と保育士の役割－ 10. 保育と家庭（2）－子どもと家族を支援するサービス・専門機関・地域活動－ 11. 家庭への支援（1）－保育所等を利用する子どもの家庭への支援－ 12. 家庭への支援（2）－地域の子育て家庭への支援－ 13. 家庭への支援（3）－子どもを産み育てるライフコースとその障壁－ 14. 家庭への支援（4）－支援の展開過程とジェノグラムの作成－ 15. 授業のまとめ		時間数
			2			2
			2			2
			2			2
			2			2
			2			2
			2			2
			2			2
その他			関 連 科 目			

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2026 年度 H-K28
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース
幼児への特別な支援			講義		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必須	15	1	前田 基子
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
特別な支援を必要とする幼児の特性と心身の発達や課題、および学びの過程を理解する。 特別支援教育や障害がある幼児の保育に関する制度や仕組みを理解する。 特別な支援を必要とする幼児への支援の方法について例示することができる。					
授 業 の 概 要					
特別な支援を必要とする幼児の様々な特性と発達を理解する。また異なる困難さに対してより適した支援の方法を学ぶ。さらに障害がある幼児に対する現在の特別支援教育、幼児に関する支援の制度や仕組みを理解する。保育士が支援する際の一人ひとりに合わせた支援計画の必要性や具体的なたて方、留意点について学ぶ。					
成 績 評 価 の 方 法					
期末試験、課題（課題に対する考察や記述の内容）、学習意欲（授業態度及び取り組み姿勢、意欲・関心）を総合的に評価する。				期末試験	50%
				課 題	20%
				学習意欲	30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
よくわかる障害児保育 第2版（尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子編 ミネルヴァ書房）					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			時間数
1. 乳幼児期の発達課題と障害特性		2	6. 特別支援教育に関する理念と制度の仕組み		2
2. 様々な障害がある幼児（知的障害・肢体不自由児・視覚障害・聴覚障害・病弱、言語障害）の理解と支援①		2	7. 個別の指導計画や個別の支援計画を作成するための基礎知識		2
3. 様々な障害がある幼児（知的障害・肢体不自由児・視覚障害・聴覚障害・病弱、言語障害）の理解と支援②		2	8. 理解到達度確認作業		1
4. 様々な障害がある幼児（発達障害）の理解と支援		2			
5. 多様な支援を必要とする幼児（外国につながる子ども、貧困の子ども）の理解と支援		2			
その他			関連科目		

シラバス（授 業 概 要） 時間数は45分換算					年 度	2026 年度
					科目コード	H-K29
授 業 科 目 名			授 業 形 態		学 科 ・ コー ス	
子どもの食と栄養			講義・演習		子ども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	15	1	末永 美雪	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
小児の発達・発育の特性、健康・栄養に関する基本的な知識を理解し、説明できるようになる。 小児期の発達段階に応じた栄養法・食生活・集団給食（保育所給食）や、食育の重要性を理解する。						
授 業 の 概 要						
保育者として、子どもに適切な保育環境を提供できるよう、発達段階の特性や栄養について理解する。 保育現場での食育の重要性を理解し、効果的な食育教材の作成と活用法を習得する。						
成 績 評 価 の 方 法						
期末試験の結果、毎時間提出する課題、平常点（学習意欲）を総合的に評価する。					期末試験	50%
					課 題	30%
					学習意欲	20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
テキスト：二見大介・高野 陽 編著「子どもの食と栄養」北大路書店 参考文献：食品成分表 女子栄養大学出版部						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
			時間数			時間数
1, 栄養に関する基礎知識			4			
2, 乳児期の授乳栄養について			2			
3, 離乳栄養について			2			
4, 幼児期の栄養と食育について			2			
5, 食育教材（カルタ・リーフレット等） の作成と活用について			4			
6, 課題 試験			1			
その他				関 連 科 目		
				子どもの食と栄養 S		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2026 年度 H-K30
時間数は45分換算					
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
子どもの保健			講義・演習 グループワーク	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	池ヶ谷麻紀子
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
[目的] 子どもの心身の健康の維持増進のために、保育者に必要な知識と技術を身につける。 [目標] ・子どもの保健の概要がわかり、保育実践に活かすための知識を得ることができる。 ・子どもの健康な発育・発達を理解できる。 ・子どもの健康を妨げる要因を知り、その対応について、実践につながる知識を得ることができる。 ・保育者として、子どもの保健における自己の役割について考えることができる。					
授 業 の 概 要					
講義を中心に、子どもの健康に関して実践につながる内容を学習する。 グループワークを通じて、他者と意見交換しながら、近年の子どもの健康に関心をもち、保育者としての保健的視点を身につけていく。					
成 績 評 価 の 方 法					
1. 学習意欲 子どもの保健に対する自分なりの考えをもち、他者に伝えようとしているか、他者の意見を聞くことができているか、で評価する。 2. レポート 授業で得た知識を基に自分なりの考えをもち、実践につなげる工夫ができているか、それをわかりやすく伝えることができているかを評価する。 3. 科目試験 子どもの保健に関して、保育者に必要な知識が身についているかを評価する					科目試験 50% レポート 20% 学習意欲 30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
よくわかる子どもの保健 (ミネルヴァ書房) 講師が得た最新の情報があれば、授業の中で情報提供します。					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			時間数
1. 子どもの保健とは		1	4. 子どもの疾病		9
2. 子どもの発育			5. 子どもの障害の捉え方		2
2-1. 子どもの運動機能の発育		2	6. 現代社会における子どもの健康課題		2
2-2. 子どもの生理機能の発育		4	7. 子どもの健康に関する		1
2-3. 子どもの精神発育		2	社会的取り組み		
3. 子どもの健康な生活			8. 子どもの保健における保育者の役割		1
3-1. 食事		2			
3-2. 睡眠		2			
3-3. 清潔・排泄		2			
その他			関連科目		
			子どもの健康と安全 S		

シラバス (授 業 概 要)					年 度	2026 年度
時間数は45分換算					科目コード	H-K31
授 業 科 目 名			授 業 形 態		学 科 ・ コー ス	
保育の心理学			講義・演習		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	30	2	内野 千珠子	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
・ 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解できる。 ・ 乳幼児期の子どもの学びの課程や特性とウェルビーイングな保育について基礎的な知識を習得し、保育者として重要な「見通し」を持った発達の支援が実践できることを目標とする。						
授 業 の 概 要						
子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。ウェルビーイングについての理解を深め、保育者としての在り方を考え、他者とのコミュニケーションを図る演習も取り入れる。						
成 績 評 価 の 方 法						
期末試験、課題（一定の授業後のレポート）における理解度と表現力、授業に取り組み積極的な姿勢（学習意欲）を総合的に評価する。					期末試験	50%
					課 題	30%
					学習意欲	20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
教科書： 実践に活かす保育の心理学 （ミネルヴァ書房） その他： 必要に応じてプリント配布						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
			時間数			時間数
1. オリエンテーション・マインドセット			1	8. 子どもと保育者の強みを活用する		
2. 発達を捉える視点				8-1 強みを知る意義		2
2-1 子どもの発達を理解することの意義			1	8-2 強みを活かす・育てる		2
2-2 発達理論と子ども観・保育観			2	9. 多様性について学ぶ		2
3. 発達を支えるアタッチメント			2	10. ストレスマネジメント		2
4. 自己と感情・情動の発達			2	11. セルフコンパッション		2
5. 虐待から考える発達			2	11-1 感情の3つの制御		
6. 保育にいかす学習理論			2	11-2 セルフコンパッションを高める		
7. ウェルビーイング保育			2	12. 期末試験		2
7-1 ウェルビーイングを理解する			1			
7-2 ウェルビーイングを高める方法			2			
7-3 ウェルビーイング保育の実践			1			
その他				関連科目		

シラバス（授 業 概 要）				年 度		2026 年度	
				科目コード		H-K32	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース		
子ども家庭支援の心理学			講義		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
2	後期	必修	30	2	実務経験のある教員		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解できる。 ・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係などについて発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点が習得できる。 ・子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題について理解できる。 ・子どもの精神保健とその課題について理解できる。							
授 業 の 概 要							
生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得できるよう、初期経験の重要性、発達課題等について、家族・家庭の意義や機能を学んでいく。また、子育て家庭をめぐる現代の社会状況や子どもの精神保健についても考え、それらの課題についても理解できるようにしていく。							
成 績 評 価 の 方 法							
レポート、演習課題の評価点、学習意欲（授業態度）を総合評価したうえで決定する。課題については、決められた期日までに提出することが最低条件である。					レポート	50%	
					課 題	30%	
					学習意欲	20%	
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
テキスト：子どもの家庭支援の心理学（中央法規）							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
			時間数				時間数
1. 生涯発達				3. 子育て家庭に関する現状と理解			2
1-1 乳幼児期の発達			2	3-1 子育てを取り巻く社会的状況			2
1-2 学童期後期の発達				3-2 ライフコースと仕事・子育て			2
1-3 青年期の発達			2	3-3 多様な家庭とその理解			2
1-4 成人期・老年期における発達				3-4 特別な配慮を要する家庭			2
2. 家庭・家族の理解				4. 子どもの精神保健とその課題			
2-1 家族・家庭の意義と理解			2	4-1 子どもの生活・生育環境とその影響			4
2-2 親子関係・家族関係の理解			2	4-2 子どもの心の健康に関わる問題			4
2-3 子育ての経験と親としての育ち			2				
2-4 事例を通して家族を考える			2				
その他				関連科目			
				保育の心理学 子ども家庭支援論			

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2026 年度	
時間数は4 5分換算				科目コード	
				H-K36	
授 業 科 目 名			授業形態	学科・コース	
教育相談			講義	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必須	30	2	実務経験のある教員
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
・子どもの気持ちを深く理解し、共感的な対応が柔軟にできる。 ・子どもをめぐる諸問題について、自分自身の体験に基づき、更に学んだ知識を活用して、論理的に思考し、意見を述べたり書いたりすることができる。 ・保育や教育の現場での様々な子どもの発達課題についての基礎知識とスキルを習得する。 ・発達障害、児童虐待、日本で暮らす外国につながる子どもたち、登園渋り・不登校など、子どもをめぐる問題についての知識を学び、考える力を身につけることを目的とする。					
授 業 の 概 要					
・教育相談の基礎的事項について学ぶ。 ・カウンセリング理論およびアセスメント技法について学ぶ。 ・不登校・いじめ・非行・発達障害・虐待の知識を深める					
成 績 評 価 の 方 法					
レポート・課題ワークシート・学習意欲を総合的に評価する。課題については、決められた期日までに提出することが最低条件である。				レポート	50%
				課 題	30%
				学習意欲	20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
テキスト：子育て支援カウンセリング～幼稚園・保育園で行う保護者の心のサポート～（石川洋子/図書文化） 必要に応じてプリント配布					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
			時間数		
1. オリエンテーション			2	11. 教育相談の実際- 思春期	2
2. 教育相談の基本			2	12. 教育相談の実際-子どもの絵	2
3. 教育相談と心理アセスメント技法			2	13. 教育相談の実際-ネット社会	2
4. 子どもの自己理解を進める技法			2	14. レポート	2
5. 園児への心理的援助			2	15. まとめ	2
6. 小学校における児童への心理的援助			2		
7. 中学校における児童への心理的援助			2		
8. 教育相談の実際- 不登校			2		
9. 教育相談の実際- 引きこもり			2		
10. 教育相談の実際- 発達がいとの関係			2		
その他			関連科目		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2026 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H-K37	
授 業 科 目 名			授業形態		学 科 ・ コー ス
保育・教職実践演習			講義・演習		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	15	1	大村 茉莉恵
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
・ 自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能の習得を確認する。 ・ 保育者としての使命や職務内容を理解し、コミュニケーション能力を習得する。 ・ ワークシートを配布資料として記入。					
授 業 の 概 要					
これまでの学習と実習を振り返り、自分の学びや課題に気づき、理想とする保育者像に近づくためにはどのようにすればよいのか具体策を考え、不足している知識や技能を補い定着を図る。					
成 績 評 価 の 方 法					
毎時間ワークシート提出（課題）、内容の評価点を総合評価したうえで決定する。 提出物（意欲）については要求された機能が実現しており、かつ、決められた期日までに提出することが最低条件である。提出物が1つでも未提出であれば、成績の評価は行われない。					課 題 50% 学習意欲 50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（フレーベル館） 配布資料					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			時間数
1. オリエンテーション		2			
保育・教職実践演習について					
2. 保育者の役割と職務内容		2			
3. 自分の理想とする保育者像とは		2			
4. 自分の得意と課題を知る		2			
5. 課題を解決するための方策を考える		4			
6. グループワーク（アイデア集作成）		3			
その他			関連科目		
			保育・教職実践演習 S		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2026 年度 H-K39
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース
乳児保育 I			講義・演習		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	榛葉 幸子
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
・ 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷および役割について理解する。 ・ 3 歳未満児の発育と発達を踏まえた保育の内容について理解することができる。 ・ 職員間の連携・協働や保護者・地域の関係機関との連携について理解する。					
授 業 の 概 要					
基本教科書に沿って授業を進めていくが、キーワードとなる考え方やワードには補足して説明する。乳児の接し方については、教員が実演したり、学生に実践してもらったりして技能を獲得できるようにする。計画立案や書類作成においては実際に書く機会を設ける。					
成 績 評 価 の 方 法					
期末試験、課題（小レポート・課題提出）、学習意欲（授業態度・発表）を総合的に判定し評価する。課題においては、決められた期日までの提出と課題内容に沿ったものであることが求められる。				期末試験	50%
				授業態度	20%
				課 題	30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
・ はじめて学ぶ乳児保育 同文書院 ・ 保育所保育指針 ・ 認定こども園教育保育要領 ※必要なプリントを配布する					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			時間数
1. 乳児保育の意義・目的		2	9. 3 歳未満児の生活・遊びと環境		4
2. 乳児保育の歴史と現状		2	10. 3 歳未満児の生活と保育者のかわり・配慮		2
3. 乳児保育・子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題		2	11. 乳児保育における計画・記録・評価とその意義		2
4. 保育所保育指針における乳児保育のポイント		2	12. 職員間の連携・協働		2
5. 乳児保育の役割と機能		2	乳児保育における複数担任制		
6. 乳児保育における養護と教育		2	13. 保護者・地域等との連携・協働		2
7. 視点と領域		2			
8. 3 歳未満児の発育発達（こころ・ことば・からだ）		4			
その他			関連科目		
			乳児保育Ⅱ S		

シラバス（授業概要）				年 度	
				科目コード	2026 年度
時間数は45分換算				H-K41	
授 業 科 目 名			授業形態	学科・コース	
音楽II			演習	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	120	4	川嶋 伸子
授業の目的・到達目標					
保育士・幼稚園教諭として必要なコードネームを理解し、簡単な伴奏付け演奏ができる。子どもたちに手遊びを教えるためのロールプレイを行い、実際の現場や場面を疑似体験することができる。また、実習や就職試験などをふまえ、子どもの曲のレパートリーを増やすことができる。					
授業の概要					
音楽の楽しさを感じ、将来、子どもたちへ音楽の楽しさを伝えられる保育者になるよう、童謡曲をはじめ、様々な子どもの曲を知り、様々な表現方法を習得する。					
成績評価の方法					
・実技試験 ・課題（授業内での課題） ・学習意欲（課題以外のものなどの評価） 以上を基に総合評価する。				期末試験	50%
				課 題	25%
				学習意欲	25%
使用テキスト・教材					
近畿大学九州短期大学 音楽ピアノ教本、ジュニアクラスの楽典テキストワーク、配布プリント					
授業内容・授業計画					
コード演奏以外に、毎授業時に、①個人レッスン、②手遊びを取り入れる。		時間数			時間数
オリエンテーション		4	コード演奏（C,Em,Am,Dm,G7,）		6
春休み課題確認、コード演奏（C）		4	コード演奏（Am,Dm,E7,Am）		6
コード演奏（G7）		4	コード演奏（G,C,D7,G）		6
コード演奏（伴奏パターン変化①）		4	コード演奏（C,D7,G,C）		6
コード演奏（F）		4	コード演奏(F,Bb,C7,F)		6
コード演奏（伴奏パターン変化②）		4	コード演奏（C,C7,F,G7,C）		6
コード演奏（C,Dm,G7,C）		4	コード演奏 経過コード		6
コード演奏（C,Am,Dm,G7,C）		4	実技試験にむけてレッスン		26
実技試験にむけてレッスン		16	後期実技試験		4
前期実技試験		4			
その他			関連科目		
			音楽I・音楽III		

シラバス（授 業 概 要）				年 度		2026 年度	
時間数は45分換算				科目コード		H-K42	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース		
音楽Ⅲ			演習		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
3	通年	必修	90	3	中津川 百世		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
弾き歌いを中心に歌詞の内容に興味を持ち想像力を豊かにし、より深く理解する。またレパートリーを増やしていきながら、すでに持っているレパートリーを強化し、保育現場で自信を持ってピアノ伴奏に対応できる力をつける。またピアノ以外でも自分の得意な事を見つけ認識させて伸ばしていく。コードネームの意味を理解し、自分のレベルに合った伴奏付けを出来る様にする。							
授 業 の 概 要							
「音楽の楽しさ」を伝えることができる幼児教育者となる為に 必要な表現力、技術力を身に付ける段階として、「歌うこと」「弾くこと」のレベルを上げる。特に弾く事に関しては、個々で得意、不得意をきちんと認識し、不得意に対しての解決法を学んでいく。							
成 績 評 価 の 方 法							
・実技 うた ・授業での学習意欲、参加態度 ・課題 他					期末試験 50% 課 題 25% 学習意欲 25%		
これらを総合的に評価する。							
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
近畿大学九州短期大学 音楽ピアノ教本 ピアノといっしょに 保育園、幼稚園でたのしめる 子どものうた大全集(出版社 ケイ・エム・ピー) その他、必要に応じてプリントを配布							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
			時間数				時間数
1.生活のうた			8	7.秋のうた			6
2.実習準備(夏のうた)			12	8.冬のうた			6
3.春の歌			6	9.行事のうた			6
4.コード付			10	10.卒園のうた			8
5.前期試験対策			10	11.期末試験対策			10
6.前期試験			4	12.期末試験			4
その他				関連科目			
ピアノを演奏する事が楽しいと思えるようになる為に、自主練習がとても大切になります。少しずつであっても、努力、進歩を感じる事ができる1年にしていきましょう。				音楽Ⅰ・音楽Ⅱ			

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2026 年度
時間数は45分換算				H-K44	
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
実習指導Ⅱ			必修	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	60	2	榛葉 幸子・吉村香央里
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
保育実習・教育実習の意義、目的や各施設と役割について理解し、自らの課題を明確にできる。また、実習へむけて必要な知識、マナー、子どもとの関わり方を身に着け、実習に対する不安や困難を軽減する。					
授 業 の 概 要					
・テキストを使用しながら、実習に必要な知識、マナー、子どもや保育者との関わり方、トラブルが起きた時の対策など具体的に学び、実習で活かせるようにする。また、実際に実習で役立つ教材などを製作する。 ・テーマに沿っての自分の考えや不安をグループやクラスで話し合う中で気持ちを共有する。また、不安をそのままにせず解決策を考えたり提示したりすることで自信を持って実習に臨めるようにする。					
成 績 評 価 の 方 法					
学習意欲（授業態度・グループワークでの取り組みや発表）、課題（保育に関する実技課題・実習課題・保育漢字テスト）を総合評価したうえで決定する。					課 題 50% 学習意欲 50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
・自分で作る BOOK&NOTE 教育・保育実習でよりよい時間を過ごそう！（同文書院） ・教育実習事前事後指導（近畿大学九州短期大学発行） ・知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド（同文書院）					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			時間数
1.	オリエンテーション 実習とは・実習生とは（自主実習振り返り）	2	9.	保育実習Ⅰを終えて	2
2.	幼稚園・保育所・施設の理解	2	10.	教育実習①に向けて	2
3.	実習生と子どもとのかかわり	2	11.	指導案の立て方	2
4.	保育者や職員とのかかわり	2	12.	実習直前準備	4
5.	実習課題の立て方	6	13.	教育実習①を終えて	2
6.	実習日誌の書き方	6	14.	教育実習②に向けて（制作）	6
7.	エピソード記録の書き方	6	15.	施設実習に向けて	6
8.	実習直前準備・保育実習Ⅰに向けて	6	16.	施設実習オリエンテーション準備	4
その他			関連科目		
			・実習指導ⅠS ・実習指導ⅢS		

シラバス（授 業 概 要）					年 度	2026 年度	
時間数は4 5分換算					科目コード	H-K45	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース		
実習指導Ⅲ			講義・演習		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
3	通年	必修	60	2	榛葉 幸子 吉村 香央里		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
各実習の意義、目的や各施設と役割について理解し、自らの課題を明確にする。また、これまでの実習を振り返り、マナーの再確認や必要な知識や技術の習得を図り、自身が抱える実習に対する不安や困難を軽減する。							
授 業 の 概 要							
・テキストを使用しながら、実習に必要な知識、マナー、子どもや保育者との関わり方、トラブルが起きた時の対策など具体的に学び、実習で活かせるようにする。 ・指導案を作成し、グループワークにて模擬保育を行う。 ・テーマに沿っての自分の考えや不安をグループやクラスで話し合う中で気持ちを共有する。また、不安をそのままにせず解決策を考えたり提示したりすることで自信を持って実習に臨めるようにする。							
成 績 評 価 の 方 法							
指導案の作成、模擬保育、グループワークでの取り組みや発表等の授業への参加態度、課題を総合的に評価する。提出物については要求された機能が実現しており、かつ、決められた期日までに提出することが最低条件である。提出物が1つでも未提出であれば、成績の評価は行われない。					課 題	60%	
					授業態度	40%	
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
・幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド（同文書院） ・映像で学ぶ指導案と日誌の書き方（新宿スタジオ） ・教育実習事前事後指導（近畿大学九州短期大学）							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
【前期】			時間数	【後期】		時間数	
1.	オリエンテーション		1	1.	保育実習ⅡSに向けて・実習のポイント		6
2.	施設実習に向けて		2	2.	乳児の発達と保育について		4
3.	施設実習事前指導		4	3.	10の姿・小学校接続をふまえた保育について		6
4.	施設実習を終えて グループディスカッション・発表		4	4.	指導案作成と模擬保育		8
5.	教育実習ⅡSに向けて・実習のポイント		4	5.	保育実習ⅡS事前指導		2
6.	日誌・指導案の書き方復習		5	6.	保育実習ⅡSを終えて		2
7.	指導案作成と模擬保育		4	7.	まとめ		2
8.	教育実習ⅡS事前指導		4				
9.	教育実習ⅡSを終えて		2				
その他				関連科目			
				・実習指導Ⅰ ・実習指導Ⅱ			

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2026 年度 H-K46
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース
リトミック			講義・演習		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	30	1	中津川 百世
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
音楽を通して身体、感性、知性を統合的に育むリトミックの理念を理解する。 音楽的要素(リズム、拍、強弱、速度、フレーズ)を身体表現で体験する。 幼児の発達段階に応じたリトミック活動を構成、指導できる基礎力を養う。					
授 業 の 概 要					
音楽と身体活動を統合したリトミックの理論と実践を学び、幼児の発達に即した音楽表現活動を構成、指導できる基礎能力を養う。リズム、拍、強弱、テンポなどの音楽的要素を身体を通して体験し、理解し、模擬指導や活動案作成を通して、保育現場で活用できる実践力を身に付ける。					
成 績 評 価 の 方 法					
期末試験、実習、授業での学習意欲、参加態度、課題の取り組み方などを総合的に評価した上で決定する。				期末試験	40%
				課 題	30%
				学習意欲	30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
その都度、必要な資料を配布。					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			時間数
1.オリエンテーション		1	11.実習		4
2.拍、リズムの基礎		1	12.まとめと振り返り		2
3.速度 (テンポ)		1	13.期末試験		2
4.強弱、ニュアンス		1			
5.高低、音の流れ		1			
6.基礎リズム (2拍子)		6			
7.フレーズと呼吸		1			
8.幼児の発達とリトミック		4			
9.指導法の基礎		2			
10.活動案作成		4			
その他			関連科目		
動きやすい服装、素足又は靴下で参加して下さい。 筆記用具持参					

シラバス（授 業 概 要）				年 度		2026 年度	
時間数は45分換算				科目コード		H-K48	
授 業 科 目 名			授業形態		学 科 ・ コー ス		
制作演習Ⅱ			演習		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
2	通年	必修	30	1	榛葉 幸子		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
素材の特性を理解し、子どもの発達を踏まえて、実習や保育の現場で生かせるような制作の方法や保育への展開の仕方を理解する。							
授 業 の 概 要							
制作の教育的意味を振り返り、子どもの発達を促す制作遊びとはどのようなものか、実践を通して子どもの目線に立ち学ぶことで、実習や保育の現場で生かせる知識と技術を養う。							
成 績 評 価 の 方 法							
授業での積極性や理解度、グループワークでの協同性や積極性を学習意欲として評価する。 制作物の完成度と提出時期を課題として評価する。						課 題	60%
						学習意欲	40%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
幼稚園教育要領、保育所保育指針、連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
			時間数				時間数
1. 保育における制作とは			2				
2. パネルシアター作り			8				
3. 子どもと遊べる玩具づくり			8				
4. 季節の制作			6				
5. 実習で使える教材作り			6				
その他				関連科目			
				制作演習Ⅰ、Ⅲ			

シラバス（授 業 概 要）				年 度		2026 年度	
				科目コード		H-K49	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース		
制作演習Ⅲ			演習		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
3	通年	必修	60	2	戸塚 恵		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
子どもの成長につなげるために、特性や発達段階に沿った制作遊びの導入・展開ができるようになる。 様々な道具や素材を臨機応変に制作に取り入れるための知識と経験を蓄える。							
授 業 の 概 要							
保育における制作遊びの意義と子どもの発達過程を理解した上で、年齢や特性に応じた制作遊びの導入と展開について実践を通して学ぶ。教育要領や保育指針と実習の経験を踏まえて、教材研究の方法を学ぶ							
成 績 評 価 の 方 法							
通常授業での積極性や理解度と模擬授業での積極性を学習意欲として評価する。 制作物や教材研究の完成度や提出時期を課題として評価する。						課 題	60%
						学習意欲	40%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
幼稚園教育要領、保育所保育指針、連携型認定こども園教育・保育要領（フレーベル館）							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
1. オリエンテーション 制作演習を学ぶにあたって 造形と発達の復習			時間数 4	3. お楽しみに使える制作 遊べる工作（グループワーク）			時間数 24
2. 子どもの発達と制作あそび 発達に応じたあそびにつなげる			20	4. 各制作物の教材研究をまとめる			8
① 0.1 歳児の制作				5.お楽しみ会を実施しながら発表			4
② 2.3 歳児の制作							
③ 4 歳児の制作							
④ 5 歳児の制作							
その他				関連科目			
				制作演習Ⅰ、Ⅱ			

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2026 年度 H-K50
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース
絵本教育 I			講義・演習		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	30	1	前田 基子
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
様々な絵本を知り、絵本の特性、絵本と子どもの育ちとの関係や役割について理解することができる。また、子どもの発達段階を考えた選書の力や読み聞かせの技術を身につける。昔ばなしを題材に教材研究を行い、保育実習や教育実習での実践に繋げる。					
授 業 の 概 要					
絵本の魅力に気づき、興味を持ちながら様々な絵本に触れ、楽しむ。保育現場や家庭教育の中での絵本の活用について考え、子どもの育ちと絵本の関係や役割、影響力についての理解を深める。さらに、実践を通して、良書を選ぶ力や読み聞かせをする技術が向上できるようにする。また、子ども達がお話をより楽しめるような伝え方（紙芝居、ペープサート、エプロンシアター等）を自分なりに工夫する。					
成 績 評 価 の 方 法					
課題（レポートや制作物）、学習意欲（授業態度、意欲・関心）を総合して評価する。提出物については決められた期日までに提出すること、求められたことに対して自分なりの考えと工夫が表現されていることで評価する。					課 題 50% 学習意欲 50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
制作するにあたり各自必要な材料や道具（油性ペン・絵の具セット・パネル布・のり・はさみ・カッター等）					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1. オリエンテーション 子どもを惹きつける絵本			時間数 2		
2. 子どもの育ちと絵本①			2		
3. 子どもの育ちと絵本②			2		
4. 絵本を選ぶ力、読む力			2		
5. 日本の昔ばなし			2		
6. 子どもに語る工夫～制作と発表			8		
7. 世界の昔ばなし			2		
8. 子どもに語る工夫～制作と発表			8		
9. ディスカッション			2		
その他				関連科目	
・教材研究や発表を多く取り入れる。				絵本教育Ⅱ・制作演習Ⅱ 保育実習Ⅰ・教育実習Ⅰ	

シラバス（授 業 概 要）				年 度		2026 年度		
				科目コード		H-K51		
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース			
絵本教育Ⅱ			講義・演習		こども保育科			
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員			
3	前期	必修	60	2	前田基子・大村茉莉恵			
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標								
・ 認定絵本土の役割について理解する。 ・ 認定絵本土に必要な絵本に関しての「知識」「技能」「感性」を身に着ける。 ・ 様々な分野や角度から絵本の基本的知識について深める。								
授 業 の 概 要								
本科目は、認定絵本土養成講座カリキュラム及びガイドラインに基づき行われる。絵本総論及び各論を学ぶ中で認定絵本土に必要な「知識」「技術」「感性」を深め学んでいく。								
成 績 評 価 の 方 法								
課題の評価点、学習意欲を総合評価して決定する。 提出物については要求された機能が実現しており、かつ、決められた期日までに提出することが最低条件である。提出物が1つでも未提出であれば、成績の評価は行われない。					課題	50 %		
					演習	50 %		
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材								
認定絵本土養成講座テキスト（中央法規出版）								
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画								
1. オリエンテーション			時間数	2	9. 絵本の持つ力		時間数	2
2. 絵本総論（絵本とは何か）				2	（さまざまな角度から絵本を見る）			
3. 絵本各論 （絵本の歴史・絵本賞・視覚表現・言語表現・絵本の関わり・絵本の位置づけ）				8	10. 心に寄り添う絵本 （心のケアと絵本の可能性）			2
4. 様々なジャンルの絵本 （物語・昔話・童話・科学絵本）				6	11. 絵本のある空間 （絵本のある望ましい空間）			2
5. 絵本と出会う （保育、教育現場・図書館・書店）				8	12. 子供の心をとらえるもの （子供の心をとらえて離さないもの）			2
6. 絵本の世界を広げる技術 （絵本を探す・ワークショップ・絵本コンシェルジュ）				6	13. 大人の心を豊かにする絵本 （大人にこそ絵本を）			2
7. 絵本を紹介する技術 （ブックトーク・書評・紹介文等）				6	14. 絵本ホスピタリティに学ぶ （人を楽しませるための手法）			2
8. おはなし会の手法 （意義と目的・テクニック）				4	15. 絵本が生まれる現場 （作家の感性に触れる・絵本の編集）			4
					16. ディスカッション （絵本専門士としての今後の活動）			2
その他				関連科目				
				絵本教育Ⅰ				

シラバス (授 業 概 要)					年 度	2026 年度
時間数は4 5分換算					科目コード	H-K52
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース	
自然教育			講義・演習		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	前期	必修	30	1	桑原 健吾	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
幼児教育における自然体験活動の位置づけを理解し、自分なりの見識を持つことができる。 ネイチャーゲームを通して子どもの年齢や発達、興味に応じた自然体験活動を計画できる。 秋の自然物（どんぐり等）を使って幼児向けのゲームを企画・制作できる。						
授 業 の 概 要						
自然体験活動（ネイチャーゲーム・SDG s 等）を通して感じたことを、アクティブラーニング形式で他の学生と共有しながら、保育者としての役割を考えていく。授業後半では、幼児向けのどんぐりゲームを企画・制作し、身近な自然物や素材を使って歳児や発達段階に適した玩具を作る力を養う。						
成 績 評 価 の 方 法						
学習意欲（授業態度）、課題（グループワーク・どんぐりゲーム制作）を総合的に評価する。					課 題	80%
					学習意欲	20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
・体験と学びを深めるネイチャーゲーム（日本シェアリングネイチャー協会） ・その他必要に応じてプリントを配布する。						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
1. 保育・幼児教育における自然教育とは			時間数	4. どんぐりゲーム制作		時間数
			2			8
2. 自然体験活動(ネイチャーゲーム体験)				6. どんぐりゲーム体験会		4
2-1.幼児教育編			2			
2-2.小学校教育低学年編			2	7. まとめ		2
2-3.小学校教育高学年編			2			
3. モルック体験			4			
4. SDGsと幼児教育						
4-1.保育現場とSDGsの関係性			2			
4-2.ゲームを通してSDGsを学ぶ			2			
その他				関連科目		
				自然教育		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2026 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H-K54	
授 業 科 目 名			授業形態	学科・コース	
交流ゼミⅡ			講義・演習	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	30	1	榛葉 幸子
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
校内・校外の講師や同じ目的を持つ学生同士が交流することで、今後の進路選択に役立てる。 普通の授業では学べない特別講座を通じて、保育現場理解や専門性・実践力を高める。					
授 業 の 概 要					
保育特別講座を開催し、保育・教育分野へのモチベーションを高め、実習時に使える教材や遊びなどを多く学習する。					
成 績 評 価 の 方 法					
保育特別講座後のレポート提出(課題)によって評価する。 また、実習報告会での報告書や発表の姿勢(学習意欲)なども評価の対象とする。					課 題 50% 学習意欲 50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
なし					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
			時間数		
1. 保育特別講座(歌遊び)			4		
2. 保育特別講座(公立園)			2		
3. OBOG セミナー			2		
4. 実習報告会			10		
5. 保育ガイダンス			4		
6. 地域ボランティア			4		
7. 保育特別講座(施設)			2		
8. 卒業研究発表参観			2		
その他				関連科目	
				交流ゼミⅠ・Ⅱ	

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2026 年度 H-K55
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース
交流ゼミⅢ			講義・演習		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	30	1	榛葉 幸子
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
校内・校外の講師や同じ目的を持つ学生同士が交流を持つことで、今後の進路選択に役立てる。 特別講座を通じて、実践力を身につけ、専門性を高める。					
授 業 の 概 要					
保育特別講座を開催し、実習や就職後に活かせる教材や遊びなどを多く学習するとともに、就職を視野に入れ、保育現場理解を深める。					
成 績 評 価 の 方 法					
実習報告会での発表内容・発表姿勢、及び、保育特別講座・交流イベント等への参加態度や実施後のレポート内容と提出状況を総合的に評価する。					課 題 50% 学習意欲 50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
なし					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			時間数
1. 保育特別講座（施設）		2			
2. 保育特別講座（歌遊び）		4			
3. 保育特別講座（公立園）		2			
4. 保育特別講座（園長講座）		2			
5. OBOG セミナー		2			
6. 実習報告会		12			
7. 保育ガイダンス		2			
8. 地域ボランティア		4			
その他			関連科目		
			交流ゼミⅠ・Ⅱ		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2026 年度 H-K56
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース
運動遊び			演習		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	30	1	小笠原香奈
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
自らが楽しんで取り組み、実践授業を通して保育現場で自信を持ち指導できるような指導テクニックを身につける。 また、様々な表現を学び保育に活かす方法を検討する。					
授 業 の 概 要					
“遊び” から始まる日常の保育の展開や実践的指導力の向上を図り、さらに園内の行事プログラムの指導計画まで発展させる。 また指導者の資質を理解し、実践力を身につける。					
成 績 評 価 の 方 法					
英語：期末試験。学習意欲・レポート提出を総合的に判断する					期末試験 15% 課 題 40% 学習意欲 45%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
なし					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
			時間数		時間数
◎オリエンテーション			2		
◎保育行事におけるの身体表現			10		
◎衣装製作・発表			8		
◎様々な投げる動き			2		
◎海外の保育・運動遊び			2		
◎戸外保育			4		
◎まとめ			2		
その他			関連科目		
【持ち物】					
運動靴・運動できる服装・縄跳び					

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2026 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H-K57	
授 業 科 目 名			授業形態	学科・コース	
卒業研究			演習	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	60	2	吉村香央里・榛葉幸子
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
保育・教育分野から主要なテーマを一つ選定し、研究する。 個々の到達目標を達成し、研究をまとめ発表できる。					
授 業 の 概 要					
保育・教育の分野からテーマを選び、研究発表する。 発表形式は、テーマによりプレゼンテーション形式または表現発表となる。 また、研究内容は、まとめとして提出する。					
成 績 評 価 の 方 法					
発表内容・研究意欲（計画性・実行性・まとめ等）を総合的に評価する。					発 表 40% 研究意欲 60%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
テキスト：なし					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1. 卒業研究とは・グループ決め・ テーマ選定	時間数	6		時間数	
2. 卒業研究	20				
3. 論文作成	10				
4. プレゼンテーション準備	20				
5. 発表	4				
その他			関連科目		

シラバス（授 業 概 要）					年 度	2026 年度
時間数は4 5分換算					科目コード	H-S05
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース	
音楽表現技術S			講義・演習 アクティブラー ニング		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	20	1	竹中 紀江	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
幼児教育に携わる保育者のさらなる音楽の技術の習得や、資質の向上が出来る。 アンサンブルによって、個々の能力を高め合い、音楽表現の強化が出来る。						
授 業 の 概 要						
子どもの歌のレパートリーを増やし、歌唱に伴うピアノ伴奏の編曲と移調法を学ぶ。 アンサンブルの楽しさを感じながら、楽器演奏に必要な知識や技術のさらなる習得と、合唱における発声法を学び、音楽の表現法を学ぶ。						
成 績 評 価 の 方 法						
授業内での発表および課題の評価点、学習意欲、を総合評価したうえで決定する。					発 表	60%
					課 題	20%
					学習意欲	20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
教科書：「音楽(ピアノ教本)」「音楽(声楽教本)」 必要に応じて楽譜プリント配布						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
			時間数			時間数
1、幼児音楽のピアノ伴奏編曲と移調法 自分のレベルに合うピアノ伴奏を編曲し楽譜を書き上げ実践する。			4	4、合唱・合奏 自分のパートに責任を持ち、速度や強弱などの表現方法を学ぶ。		8
3、 幼児音楽のいろいろな歌 個々のレベルに合う弾き歌い			4	5、発表 まとめ		4
その他				関 連 科 目		
				音楽ⅠⅡⅢ 音楽表現(指導法)S 幼児と音楽表現S		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2026 年度 H-S06
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース
幼児と造形表現 S			講義・実技		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	20	1	戸塚 恵
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
様々な素材や表現方法を通して自己表現する楽しさを知り、表現者として主体的に取り組むことで、幼児の造形表現への理解を深め、豊かな創造性を育む。必要な援助と成長を見守れる保育者の育成と実践的造形教育指導の習得を目指す。					
授 業 の 概 要					
デカルコマニー、マーブリング、スクラッチ、スパッタリングなど図画の基礎的技術の習得とそれらを応用した作品制作。粘土や工作を通して、道具や材料の使い方安全指導を学びながら作品を制作。それぞれの作品作りの感想をまとめながら指導に生かすポイントを精査する。					
成 績 評 価 の 方 法					
基礎的技術の取得度合い、作品の完成度、感想や制作ポイントのまとめ学習意欲を総合的に評価する。				期末試験	0%
				課 題	80%
				学習意欲	20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
画用紙、絵の具、スパッタリング、割りばし、粘土、糊、ハサミ、カッター、接着剤、各自必要な工作材料など					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
「いろいろな技法」 幼児の表現の発達について復習 1. デカルコマニー(合わせ絵) 2. スタンピング(たたき絵) 3. スクラッチ 4. ドリッピング (ふき絵) 5. マーブリング 6. スパッタリング 7. フロッタージュ 8. オリジナル作品制作	時間数	「物語を想定した二つの工作」 1. 物語を考え制作物をデザインする 2. 制作 3. 制作物の発表	時間数		
				1	
				7	
				2	
	10				
その他			関連科目		
			造形表現 (指導法)		

シラバス（授業概要）				年 度	
				科目コード	2026 年度
時間数は45分換算				H-S10	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース
幼児と健康 S			演習		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	20	1	小笠原 香奈
授業の目的・到達目標					
幼児期運動指針の要点や現代の子ども達における問題を理解し、保育者としての知識・技術を身につけ、保育に活かす方法を知る。					
授業の概要					
幼児期に必要な運動プログラムを学び実践することで、保育者としての技術を身につける。さらに保育者の資質について知り、実践力向上を図る。					
成績評価の方法					
レポート提出・学習意欲を総合的に判断する。				課題	50%
				学習意欲	50%
使用テキスト・教材					
【参考文献】 ・文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 ・厚生労働省 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 ・日本発育発達学会 『幼児期運動指針 実践ガイド』 杏林書院 ・KIDSBICSHANDBOOK 日本子どもフィットネス協会 ・野津直樹、大浦賢治編著 『実践につながる新しい幼児教育の方法と技術』 ミネルヴァ書房					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
◎オリエンテーション		2	◎雨の日の身体を使った遊び		2
◎幼児期運動指針とは		2	◎世界の幼児教育・保育と		2
◎幼児期運動指針のポイント		2	日本の幼児教育・保育		
◎子どもの身体活動の現状と問題点		2	◎保育計画の立て方と実践		2
/幼児期における運動の意義			◎レポート作成		2
◎脳の発達について		2	◎保育者の資質とは		2
その他			関連科目		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2026 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H-S15	
授 業 科 目 名			授業形態	学科・コース	
社会的養護 IIS			演習	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	20	1	工藤 豪
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
社会的養護の実践に携わるために必要な知識や援助技術を身につけるとともに、被措置児童等への対応や子どもを社会的に養護することの意義・課題について理解し、自らの言葉で説明できるようになる。					
授 業 の 概 要					
社会的養護 I で学習した基本的知識を踏まえ、児童虐待における特徴や被措置児童等への対応について考察し、また地域社会の乳児院・児童養護施設の現状を把握するとともに、このとりのゆりかごや特別養子縁組に関する課題を考えながら、現代社会の社会的養護を担う保育者・養育者としての役割を果たせるよう、多角的視点から理解を深めていく。					
成 績 評 価 の 方 法					
スクーリングの最後にテキスト・ノート・資料等を参照しながら行う到達度確認(確認作業)、作業プリントやリアクションペーパーの内容等(課題)、授業時の受講態度やグループ考察時の参加姿勢など(学習意欲)、以上から総合的に評価する。なお、成績評価を行うにあたっては、授業の中で指示された課題の提出を完了することが必要となる。					確認作業 50% 課 題 25% 学習意欲 25%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
『MINERVA はじめて学ぶ子どもの福祉 5 社会的養護』(2018、伊藤嘉余子・福田公教編著、ミネルヴァ書房)					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			時間数
1. オリエンテーション・社会的養護に求められる専門性		2	7. 地域社会の子どもと養護(2)ー静岡県の乳児院と児童養護施設ー		2
2. 社会的養護の現状ー虐待を受ける子どもの増加ー		2	8. パーマネンシー保障について		2
3. 児童虐待(1)ー近年における実態と制度的対応ー		2	9. 「このとりのゆりかご」と特別養子縁組について		2
4. 児童虐待(2)ー被措置児童等の虐待に関する現状と課題ー		2	10. 授業のまとめと到達度確認		2
5. 児童虐待(3)ー虐待を受けた子どもへの対応に関する事例考察ー		2			
6. 地域社会の子どもと養護(1)ー静岡県における措置児童の現状ー		2			
その他			関連科目		
			社会的養護 I		

シラバス（授 業 概 要）					年 度	2026 年度
時間数は45分換算					科目コード	H-S16
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース	
障がい児保育S			講義		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必修	20	1	前田 基子	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
障害児保育に関する基本的知識を身につけ、障害児保育における意義や障害児の特性を踏まえた保育や支援のポイントについて考えることができるようになる。						
授 業 の 概 要						
障害の定義や捉え方、障害児保育の目的や意義、障害の特性を理解する。また、障害児保育・療育の歴史と展開を学ぶとともに、現在、保育の場での障害がある子どもの様々な支援環境について知る。そして支援の良さや課題、関係性等について考察する。さらに、保育・療育の場における具体的な支援方法や保育者の留意点について理解を深める。						
成 績 評 価 の 方 法						
期末試験、テーマに対するレポート、学習意欲（授業態度及び意欲・関心）を総合的に評価する。					期末試験	50%
					レポート	20%
					学習意欲	30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
よくわかる障害児保育 第2版（尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子編 ミネルヴァ書房）						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
			時間数			時間数
1. 障害の定義と捉え方			2			
2. 障害児保育の目的と意義 障害児保育・療育の歴史と展開			2			
3. 知的障害の特徴と保育現場での支援			2			
4. 発達障害の特徴と保育現場での支援① ～自閉症スペクトラム障害			2			
5. 発達障害の特徴と保育現場での支援② ～注意欠如・多動性障害、学習障害			2			
6. 障害のある子どもの保育環境や遊び			2			
7. 分離保育と統合保育			2			
8. 発達支援の様々な技法 ～感覚統合訓練			2			
9. 園内連携と家庭及び関係機関との連携			2			
10. 理解到達度確認作業			2			
その他				関連科目		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2026 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H-S17	
授 業 科 目 名			授業形態		学 科 ・ コー ス
子どもの食と栄養S			講義・演習		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	20	1	末永 美雪
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
小児期における食育の重要性を理解し、食育教材を活用して食育指導ができるようにする。 栄養バランスの良い食事を整える重要性を理解し、調理することができるようになる。 小児期におけるおやつ必要性を理解し、手作りおやつの調理ができるようになる					
授 業 の 概 要					
絵本や紙芝居を活用し効果的な食育が実践できるスキルの習得を目指す。 小児期の適切な食事を理解し、栄養バランスのとれた献立と手作りおやつの調理実習等を体験する。					
成 績 評 価 の 方 法					
期末試験、課題と調理実習への取り組み状況、学習意欲・実習記録等を総合的に評価する。					期末試験 30% 課 題 60% 学習意欲 10%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
テキスト：二見大介・高野 陽 編著「子どもの食と栄養」北大路書店 参考文献：食品成分表 女子栄養大学出版部					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1 日目		時間数	2 日目		時間数
1 時間目 絵本を使った食育の実践演習		2	1 時間目 栄養バランスの良い食事の調理実習		2
2 時間目 絵本を使った食育の実践演習		2	2 時間目 栄養バランスの良い食事の調理実習		2
3 時間目 紙芝居を使った食育の実践演習		2	3 時間目 離乳食への展開の調理実習		2
4 時間目 紙芝居を使った食育の実践演習		2	4 時間目 手作りおやつの調理実習		2
5 時間目 まとめ 試験		2	5 時間目 まとめ 試験		2
課題・実習記録の作成			課題・実習記録の作成		2
その他			関連科目		
			子どもの食と栄養		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2026 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H-S18	
授 業 科 目 名			授業形態	学科・コース	
子育て支援S			演習	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	20	1	実務経験のある教員
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。					
授 業 の 概 要					
保育士の行う子育て支援の特性を理解し、支援の実際や今後の展開を学ぶ。 子育て支援における保育者の役割と職務内容を理解する。 様々な人々との連携した支援方法の基礎を習得する。					
成 績 評 価 の 方 法					
事例ワークシートの結果、演習課題の評価点、学習意欲（授業態度）を総合評価したうえで決定する。課題が1つでも未提出であれば、成績の評価は行われない。				レポート	50%
				課 題	30%
				学習意欲	20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
プラクティス／保育・福祉のはじまり 子育て支援（ミネルヴァ）					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			時間数
1. 子どもの保育とともに行う保護者の支援		1	9. 保育所等における保護者支援		2
2. 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成		1	10. 地域の子育て家庭に対する支援		2
3. 保護者や家庭の抱える支援ニーズへの気づきと多面的な理解		1	11. 障害のある子ども及びその家庭に対する支援		2
4. 子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供		1	12. 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援		2
5. 子ども及び保護者の状況・状態の把握		1	13. 子どもの虐待の予防と対応		2
6. 支援の計画と環境の構成		1	14. 要保護児童等の家庭に対する支援		1
7. 職員間の連携・協働		1	15. 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解		1
8. 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働		1			
その他			関連科目		
子育て家庭に関するニュースや報道に関する事柄に関心を寄せておくこと。			子ども家庭支援論		

シラバス（授 業 概 要）					年 度	2026 年度
時間数は4 5分換算					科目コード	H-S20
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース	
教育実習事前事後指導 S			講義・演習		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	20	1	大石 竜士	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
教育実習に向けた「事前」の心構えや準備に関する基礎知識が理解できる。 観察記録の作成、指導計画の立案の方法を理解できる。 「事後」のまとめに関わった考察の視点を理解する。履修カルテの記入						
授 業 の 概 要						
幼稚園二種免許状取得に向けた教育実習が円滑かつ有意義に行われるよう、以下のような教育実習に関わった基礎的な理解の知識を深めていく。①幼児期の発達段階②幼稚園の機能と役割③幼稚園教諭の職務と役割④観察記録の作成方法⑤指導計画の立案補法。						
成 績 評 価 の 方 法						
授業態度（意欲・積極性）・課題 課題については要求された機能が実現しており、かつ、決められた期日までに提出することが最低条件である。課題が1つでも未提出であれば、成績の評価は行われない。					授業態度	50%
					課 題	50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
教育実習事前事後指導（近畿大学九州短期大学）						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
			時間数			時間数
1、教育実習で学ぶこと			2			
2、実習生の責任と義務			2			
3、実習の事前学習			2			
4、実習の実際			2			
5、実習の事後学習			2			
6、感染症対策について			2			
7、実習記録作成について			2			
8、日誌、指導案の書き方			4			
9、まとめ・履修カルテの記入			2			
その他				関連科目		

シラバス（授 業 概 要）					年 度	2026 年度
時間数は4 5分換算					科目コード	H-S22
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース	
教育実習①S			その他		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	30	1	大石 竜士	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解できる。 幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解できる。 幼稚園での1日の教育内容を振り返り、観察記録を作成することができる。						
授 業 の 概 要						
専門教育科目で獲得した幼児教育に対する知識、技能を活用しながら、実践的指導力を体験的にまた総合的に高めていくことを目標とする。この目標を達成するために1週間の観察実習・参加実習・部分実習を主とする実習を行うこととする。						
成 績 評 価 の 方 法						
1. 実習日誌の記述内容①「観察記録」の記述内容、②「本日の実習についての反省・感想・今後の課題など」の記述内容 2. 実習園による評価 3. 実習後の事後レポートなどの提出物 提出物については要求された機能が実現しており、かつ、決められた期日までに提出することが最低条件である。提出物が1つでも未提出であれば、成績の評価は行われない。					実習日誌の記述内容	50%
					実習園による評価	50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
1. 各園実習 以下のような観察視点から幼稚園においてどのような活動が、どのような方法で行われているかを把握することに努める。 ①幼稚園における1日の生活・活動の流れと生活・活動内容の概要 ②遊び生活場面での園児の活動			時間数 30	③園児の行動に対する幼稚園教諭の対応		時間数
その他				関連科目		
参加実習では、指導教員の指導と援助を受けながら、教育活動や園務に積極的に従事する。				教育実習②S 教育実習事前事後指導 S		

シラバス（授 業 概 要）				年 度		2026 年度	
時間数は45分換算				科目コード		H-S23	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース		
教育実習②S			その他		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
3	後期	必修	90	3	大石 竜士		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解できる。 幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解できる。 幼稚園での1日の教育内容を振り返り、観察記録を作成することができる 部分実習または、全日実習の指導計画を立案することができる。							
授 業 の 概 要							
専門教育科目で獲得した幼児教育に対する知識、技能を活用しながら、実践的指導力を体験的にまた総合的に高めていくことを目標とする。この目標を達成するために3週間の指導実習を主とする実習を行うこととする。							
成 績 評 価 の 方 法							
1.実習日誌の記述内容①「観察記録」の記述内容、②「本日の実習についての反省・感想・今後の課題など」の記述内容 2.指導計画の記述内容①「朝の会」「絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊びや音楽の弾き歌いなどの短時間で行える活動」「昼食指導」「帰りの会」の部分実習②「午前の主な活動」「午後の主な活動」の部分実習 3.実習園による評価 提出物については要求された機能が実現しており、かつ、決められた期日までに提出することが最低条件である。提出物が1つでも未提出であれば、成績の評価は行われない。					実習日誌・指導計画の記述内容 50% 実習園による評価 50%		
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
1.各園実習 1 回目の実習を基礎として、専門教育科目で学習したあらゆる知識・技能を統合しながら、以下のような学習内容を獲得していく。 ①部分実習、全日実習の指導計画の作成および指導 ②幼稚園教諭としての保育技能の取得および態度の養成			時間数 90	③幼稚園と家庭との連携の内容と方法の理解、先生同士の連携の理解（報連相）		時間数	
その他				関連科目			
担当職員の指導や助言に従い、積極的に教育実習に参加すること				教育実習②S 教育実習事前事後指導 S			

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2026 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H-S24	
授 業 科 目 名			授業形態	学科・コース	
保育・教職実践演習 S			講義・演習	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	20	1	大村 栄李恵
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能の習得・コミュニケーション能力を確認する。また、保育者としての使命感と職務内容について再確認する。					
授 業 の 概 要					
保育者として必要な資質能力の習得を確認し、保育の現場ですぐに活用できる技術や知識をワークやロールプレイにより学習する。実習でのエピソードなど子どもや保育への思いを再認識し仲間と共有を図りながら意欲向上につなげる。					
成 績 評 価 の 方 法					
課題の評価点、学習意欲を総合評価して決定する。 提出物については要求された機能が実現しており、かつ、決められた期日までに提出することが最低条件である。提出物が1つでも未提出であれば、成績の評価は行われない。					学習意欲 50% 発 表 50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
必要なプリントを配布する。					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1. オリエンテーション 保育者として必要なこと			時間数 2		
2. 保護者理解と支援			2		
3. 子どもと保育のすばらしさ			2		
4. 安全管理			2		
5. 保育者とコミュニケーション			2		
6. 保育者に必要なソーシャルマナー 制作物の作成・発表			10		
その他				関連科目	
				保育・教育実践演習	

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2026 年度 H-S26
時間数は45分換算					
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
乳児保育IIS			講義・演習	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	20	1	榛葉 幸子
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
・3歳未満児の発育と発達の特徴について理解し、かかわりの基本的な考え方を理解する。 ・養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の生活や遊びと保育の方法・環境について理解する。 ・乳児保育における配慮の実践について具体的に理解する。 ・乳児保育における計画の作成について学ぶ。					
授 業 の 概 要					
乳児保育における保育環境・保育内容・配慮の実践について個人やグループでの演習を通し、具体的に学習する。					
成 績 評 価 の 方 法					
課題（小レポート・課題提出）、授業態度を総合的に判定し評価する。課題においては、決められた期日までの提出と課題内容に沿ったものであることが求められる。					授業態度 50% 課 題 50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
・はじめて学ぶ乳児保育 同文書院 ・保育所保育指針 認定こども園教育保育要領					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1. 乳児保育の基本 (保育者との関係・応答のかかわり・主体性の尊重・環境)		時間数 2	6. 乳児の心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 (安全管理・対処)		時間数 2
2. 乳児の発達・発育を踏まえた生活と援助 (衣服の着脱・排泄 (おむつ替えとトイレトレーニング))		2	7. 乳児保育における計画		4
3. 乳児の発達・発育を踏まえた生活と援助 (授乳・乳幼児の栄養)		2	8. 乳児保育に活かす玩具づくりと実践		4
4. 乳児の発達・発育を踏まえた生活と援助 (睡眠・だっこ・おんぶ)		2			
5. 乳児の発達・発育を踏まえた生活と援助 (言葉・絵本・スキンシップ)		2			
その他			関連科目		
			乳児保育 I		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2026 年度 H-S27
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース
子どもの健康と安全S			講義 グループワーク		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	20	1	池ヶ谷 麻紀子
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
[目的] 子どもの健康で安全な生活を支えるために必要な保育者の役割を学ぶ。 [目標] ・保健的視点で見た保育環境構成や日常生活援助について理解できる。 ・子どもの健やかな育ちのために、他者とどう関わり、どのような実践をしていくか、考えることができる。					
授 業 の 概 要					
グループワークを中心に、今まで学んだことを活かしながら他者と意見交換し、子どもの安全を守り、健康を維持増進していく保育実践について考える。					
成 績 評 価 の 方 法					
授業、グループワークへの参加意欲から、学習意欲を評価する。 事後レポートにより、授業内容を理解しているか、自己の考えをもち、学びを保育実践に活かそうとしているかを評価する。					レポート 60% 学習意欲 40%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
よくわかる子どもの保健（ミネルヴァ書房） 講師が得ている最新の情報があれば、授業の中で提供します。					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			時間数
1. 保健的視点で見た保育環境		1	4. 子どもの健康と安全を脅かすもの		2
2. 保育における健康および安全の管理			5. 保育における保健的対応の		1
2-1. 衛生管理		1	基本的な考え方		
2-2. 傷害予防および安全対策		3	6. 個別的配慮を要する子どもへの対応		3
2-3. 危機管理		1	7. 様々な保育の場		2
2-4. 災害への備え		1	8. まとめ		2
3. 傷病発生時の対応					
3-1. 応急処置と心肺蘇生		1			
3-2. 感染症への対応		2			
その他			関連科目		
			子どもの保健		

シラバス（授 業 概 要）					年 度		2026 年度	
時間数は45分換算					科目コード		H-S28	
授 業 科 目 名				授業形態		学科・コース		
保育実習Ⅰ（保育所）S				その他		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員			
2	前期	必修	60	2	榛葉 幸子			
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標								
・ 保育所等の機能や役割を具体的に理解する。 ・ 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 ・ 既習の教科の内容をふまえ、保育や子育て支援について総合的に学ぶ。 ・ 保育の計画・観察・記録の必要性を理解し、記録・考察ができる。								
授 業 の 概 要								
「保育実習」Ⅰ（保育所）は、保育士資格を取得するために行う実習であり、観察と子どもや保育者とのかかわりを通して、主に、①保育所の役割や生活②子どもへの理解とかかわり③保育士の業務内容や職業倫理④保育士としての技術や記録方法を体験的に学ぶ。								
成 績 評 価 の 方 法								
実習日誌、事後レポート等の提出物、実習園の評価を総合評価したうえで決定する。						実習日誌・提出物	50%	
						実習園による評価	50%	
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材								
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画								
1. 「保育所実習」では、以下の観点から保育所における保育がどのようになされているかを理解する。 ① 保育所の内容、機能についての理解 保育所の1日の流れやデイリープログラム等を理解する。 ② 保育所における子どもの理解 年齢や月齢ごとの子どもの発達とその特徴、個人差について理解する。			時間数 60	③ 保育所における保育者の役割、視点等を理解し、子どもへのかかわり方や保育技術を学ぶ。 ④ 日誌の書き方や保育の捉え方を学ぶ			時間数	
その他				関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。 担当保育者に指導や助言を受け、積極的に保育実習に参加すること。				保育実習Ⅰ（施設）S 保育実習ⅡS 保育実習事前事後指導Ⅰ・ⅡS				

シラバス（授業概要）				年 度	
				科目コード	2026 年度
時間数は45分換算				H-S29	
授 業 科 目 名			授業形態	学科・コース	
保育実習Ⅰ（施設）S			その他	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	60	2	小笠原 香奈
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
施設現場で養護と療育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解することができる。 実践を通じて、保育の技術、能力が向上できる。 自分なりの保育観や子ども観を深め確率できる。					
授 業 の 概 要					
「保育実習Ⅰ」は、保育士資格を取得するために児童福祉施設（保育所以外）で行う実習である。乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設などの養護施設や障害時入所施設・障害者支援施設などの障害者施設で実習を行う。それぞれ10日間の実習で次の内容を体験的に学ぶ。①施設における1日の流れ②子どもや障害者への理解を深める③施設職員の業務内容や修業倫理について学ぶ④施設の技術や記録方法について実践的に学ぶ⑤保育士を志すものとして自覚を高める					
成 績 評 価 の 方 法					
実習日誌、事後レポートの提出、実習園による評価を総合評価したうえで総合的に評価する。				実習日誌の記述内容	50%
				実習園による評価	30%
				課題	20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1.「施設実習」では、以下の観点から施設における保育がどのようになされているかを理解する。 ①施設の内容、機能などを理解する。 1日の流れ、子どもや障害者の活動など ②施設職員の職務内容および役割、また他の職員とのチームワークなどの理解			時間数 60	③子どもや障害者を取り巻く社会や家族の問題について理解する ④日誌の書き方を学ぶ	時間数
その他			関連科目		
担当職員の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること			保育実習Ⅰ（保育所）S 保育実習ⅡS 実習事前事後指導Ⅰ（保育）（施設）S		

シラバス（授 業 概 要）				年 度		2026 年度		
				科目コード		H-S30		
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース			
保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所）S			講義・演習		こども保育科			
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員			
2	前期	必修	20	1	榛葉 幸子			
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標								
保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に挑む心構えができる。 実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に着けることができる。 実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標が明確にできる。								
授 業 の 概 要								
保育実習における実習を円滑に進め学習効果を上げるために、必要な知識やスキルについて事前事後指導を行う。実習園の概要を把握し、実習への意欲を高めながら自己の課題を明確にし、効果的な実習の実施を目指す。								
成 績 評 価 の 方 法								
課題の提出状況および内容、学習意欲として授業への参加態度を総合的に評価する。					課 題	70%		
					学習意欲	30%		
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材								
・ 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育園・児童福祉施設等 実習ガイド 同文書院 ・ 保育所保育指針解説 ・ 実習の記録と指導案 ひかりのくに								
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画								
1. 保育所実習の全体の流れと諸注意			時間数	2	7. 実習日誌の書き方（記入の実際）		時間数	2
2. 実習生のマナーと心構え				2	8. 実習目標と課題の立て方			2
3. 保育所の生活と社会的役割				2	9. 3歳未満児のデイリープログラムと実習日誌の書き方			2
4. 課題の明確化				2	10. 実習直前オリエンテーション			2
5. 実習日誌の書き方（記録の意義・諸注意）				2				
6. 実習日誌の書き方（記録の取り方・記入の仕方）				2				
その他				関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。				保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）S 保育実習ⅠS 保育実習ⅡS				

シラバス（授業概要）				年 度	
				科目コード	2026 年度
時間数は 4 5 分換算				H-S31	
授 業 科 目 名			授業形態	学科・コース	
保育実習事前事後指導I（施設）S			講義・演習	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	20	1	小笠原香奈
授業の目的・到達目標					
施設実習の全体的な枠組みを理解し、実習に挑む心構えができる。 指導計画の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に着けることができる。 実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標が明確にできる。					
授業の概要					
施設実習の全体的な枠組みを理解し、具体的な内容を通して施設実習についての授業を行う。施設実習前にすべき事柄・実習記録の作成および、実習後にすべき事柄などを中心に具体的な事例に基づきながら行っていく。					
成績評価の方法					
レポート提出・学習意欲を総合的に判断する。				課題	50%
				学習意欲	50%
使用テキスト・教材					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
◎社会福祉施設とは		1			
◎施設における役割と機能		1			
◎施設における保育内容と養護		8			
◎施設実習に関する基本的理解と諸注意		2			
◎実習記録作成について		4			
◎実習日誌の書き方		4			
その他			関連科目		
			保育実習事前事後指導I（保育）S 保育実習IS 保育実習IIS		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2026 年度
時間数は45分換算				H-S32	
授 業 科 目 名			授業形態	学科・コース	
保育実習ⅡS			その他	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	60	2	榛葉 幸子
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
・既習の教科や「保育実習Ⅰ」を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術が向上できる。 ・子どもの最善の利益への配慮とそれを具体化する方法を理解する。 ・子育て支援をするために必要な知識・技術とニーズに対する理解力・判断力を養うことができる。					
授 業 の 概 要					
「保育実習Ⅱ」では、保育実習Ⅰを活かし、子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育の実践、さらに子育て支援としての保育所の役割を踏まえた保育実践に努める。 「保育実習Ⅱ」を履修するためには、「保育実習参加資格」の条件を満たさなければならない。「また、保育実習Ⅰ」を終えておかなければならない。					
成 績 評 価 の 方 法					
実習日誌、事後レポートなどの提出物、実習園による評価を総合的に評価する。				実習日誌・提出物	50%
				実習園による評価	50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1.「保育実習Ⅱ」では、以下の観点から保育士としての実践力を高めていくよう努める。		時間数			時間数
①子どもの年齢や発達に応じた保育や遊びの展開を行う。		60	④延長保育や休日保育、育児相談など子育て支援事業の理解。		
②その場の状況に応じた子どもの対応と保育について理解する。			⑤保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等の実践と理解。		
③支援の必要な子どもや保護者への対応について理解する。			⑥保育士としての自己の課題を明確にする。		
その他			関連科目		
できるだけ、部分実習や全日実習を行い、実践力を養うよう努めること。			保育実習Ⅰ（保育所）S 保育実習Ⅱ（施設）S 保育実習事前事後指導S		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2026 年度
時間数は45分換算				H-S33	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース
保育実習事前事後指導 IIS			講義・演習		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	20	1	榛葉 幸子
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
・「保育実習事前事後指導」「保育実習Ⅰ（保育所）」、既習の教科の内容を基盤に、保育所の理解、子どもや家庭への支援について理解できる。 ・子どもの発達や実習園の方針に沿った指導計画作成や的確な記録・考察ができる。 ・実習の振り返りにより、保育者として自己の課題を明確化できる。					
授 業 の 概 要					
「保育所実習Ⅰ（保育所）」での自己評価と課題・学習目標について再確認する。それに基づき、具体的な内容を通して、「保育実習Ⅱ」に関する目的を明確にし、実習計画作成、実践、日誌の記録など、より実践的な内容を学習する。					
成 績 評 価 の 方 法					
課題（「保育所実習Ⅱ」の実習目標、課題、実習事後レポート）の評価点、学習態度（発表も含む）を総合評価したうえで決定する。					課 題 70% 学習態度 30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
保育所保育指針解説（フレーベル館）					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1. 保育実習Ⅱの目的・意義について	時間数	2	6. 教材作成	時間数	2
2. 課題の明確化	2		7. 模擬保育	2	
3. 実習日誌とその活用	2		8. 模擬保育	2	
4. 指導案の作成	2		9. 模擬保育	2	
5. 指導案の作成	2		10. 実習直前オリエンテーション （実習における諸注意と自己チェック）	2	
その他			関連科目		
			実習指導Ⅱ 保育実習事前事後指導ⅠS（保育所） 保育実習ⅠS（保育所） 保育実習ⅡS		